

# 町医者だより

平成23年10月号

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

1分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器科

## アトピー性皮膚炎と気管支喘息の関係

数年前からフィラグリン (Filaggrin) という物質がアトピー性皮膚炎の病態にかかわっているとの報告が出始めました。フィラグリンは皮膚の上皮で産生され、紫外線から皮膚を守るウロカニン酸とピロリドカルボン酸 (PCA) などの天然保湿因子 (これらの物質は今後、化粧品などのうたい文句に出てくると思われます) の供給源となるタンパクです。フィラグリン遺伝子の欠損で尋常性魚鱗癬という皮膚がカサカサして字のごとく皮膚がうろこ状になる遺伝性疾患を発症します。今回フィラグリンという物質を通してアトピー性皮膚炎と喘息の関係を探ります。

### アトピー性皮膚炎では・・・

欧米での報告では42%のアトピー性皮膚炎の患者さんでフィラグリン遺伝子変異 (欠損ではないので産生されていないわけではない) が認められるということです。天然保湿成分の供給源の変異が乾燥肌などの皮膚症状を引き起こすことは想像に難くありません。フィラグリン遺伝子変異があるとアトピー性皮膚炎になるリスクが3.1倍になります。またこの遺伝子変異を有するアトピー性皮膚炎の患者さんでは、接触性皮膚炎やニッケル (金属) アレルギーを有する割合が高くなることも報告されています。

### フィラグリン遺伝子変異を有すると多種多様なアレルギーを発症

フィラグリン遺伝子変異を有すると喘息になるリスクが約1.5倍になります。ただし、このリスク上昇はアトピー性皮膚炎の既往や症状がある方だけで、皮膚炎がなければ喘息になるリスクの上昇はありません。一読すると理解しにくいですが、これはフィラグリン遺伝子は喘息の発症には直接関係しないことを意味しています。フィラグリンは皮膚のみに発現していて気管支上皮では作られていません。皮膚の障害が喘息にどのように関係しているのか正確なメカニズムは分かっていませんが、バリア機能を失った皮膚から吸収されるアレルギーや病原体の増加が肺の炎症に関係するのではないかと考えられています (皮膚と肺が関係あるとは、生体の反応は複雑です)。またこれも機序不明ですが皮膚のフィラグリン遺伝子変異がピーナッツアレルギー (リスクが5.3倍になる) やアレルギー性鼻炎の増加に関連しています。

### アトピー性皮膚炎と気管支ぜんそくの関係は意外と稀薄

以前もこの町医者だよりでお話いたしましたでしたが、喘息の発症に関与する遺伝子解析でもアトピー性皮膚炎発症に関連ある「IGE」は喘息発症に関係ないとの報告が相次いでいますし、今回紹介いたしました皮膚炎に関与するフィラグリンも喘息発症に関係がなく、「アトピー性皮膚炎があるのであなたは喘息です」といった短絡的な説明を医師ができなくなりつつあります。もちろんアトピー性皮膚炎と喘息の両方を有する患者さんはたくさんいらっしゃいますが、この2つの疾患は異なる遺伝子異常が働いている可能性が高いと考えます。